

宗像市沖ノ島の地形の特徴

Landform features of Okinoshima of Munakata city

*黒木 貴一¹

*Takahito Kuroki¹

1. 福岡教育大学教育学部

1. Faculty of Education, Univ. of Teacher Edu. Fukuoka

宗像市は2015年から現在市史の編纂を進めている。まもなく「うみ・やま・かわ」と題する自然編が出版予定である。これまで自然編作成の中で、沖ノ島と宗像市の周辺海底の地形に関する様々な地図を作成し、その地形及び分布の特徴を明らかにした。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、2017年7月に世界遺産に登録された。沖ノ島は、最高標高が約240m、面積が約96万m²の小島で、九州本島から北西約70kmの位置にある。この島は切り立った断崖と緩斜面で構成され、平野は大変少ない。また島の南西部は頁岩、北西部は石英斑岩、南東部は崖錐堆積物で構成されており、独特の地形分布がある。そこに歴史的資料が多数発見され調査された。その南側の緩斜面には、4世紀から9世紀までの、航海安全を祈るための貴重な奉納品が大量に残されており、また神聖な場所、宗像大社の沖津宮が鎮座する。なお島で見聞きしたことは他言せず、島のものは持ち出さないという禁忌もある。

各種地理情報のGIS解析から、沖ノ島の地上と海底の地図を作成し、地形の特徴を検討した。さらに現地で地形及び地質調査を行った。地理情報として、国土地理院の基盤地図情報、海上保安庁発行の等深線データ、宗像市所有のレーザープロファイラデータを使用した。基本的な標高分布図、傾斜量図、陰影図、立体地形図を作成した。標高分布図で見ると60-80mと40-60mの中間的な標高帯の面積が広い。傾斜量図で見ると30-40度の中間的な傾斜帯の面積が最も広い。さらに基礎的な地図の判読と現地調査から地形区分図を作成した。地形は、頂稜、開析谷、急崖、崩落堆、崖錐、海岸、人工改変地に区分された。特に南西部では、地すべりの存在を示す急崖と崩落堆の分布が特徴的である。また地表には主に東西性の走向を持つ線状模様が3列判読できた。立体地形図などから、沖ノ島本体は海底から約340mの高さを持つことが読み取れる。沖ノ島南方の海底地形は、西側は浅い平坦地で、東側は東に傾斜する凹地である。

沖ノ島では、今後成因を解明すべきその他の地形的な特徴も確認された。地上では石英斑岩の北向きの傾斜、中腹に散在する巨大な石英斑岩塊、海面よりかなり高い位置にある円礫層、海底では多くの崩壊地形である。今回の発表では、立ち入りが制限された沖ノ島に関し、GISによる地図の解析から明らかにされた各地形の特徴を紹介する。

キーワード：沖ノ島、地図、地形、地すべり

Keywords: Okinoshima, map, landform, landslide